

高水準の設備投資継続

世界全体でみると自動車市場は拡大傾向にある。消費増税後の日本や政情不安のタイなど苦戦する地域もある。一方で、北米市場は好調だ。自動車部品各社は事業成長に向けて国内外に新工場を整備してきた。既存の生産拠点を充実させる段階の会社も多いが、新工場を建設する意欲は衰えていない。

メキシコに新設

豊田合成はメキシコに新工場を建設し、2016年4月をめどに生産を開始する。メキシコは自動車エンジン用軸受の増産に向けて設備投資を積極化



大同メタル工業はエンジン用軸受の増産に向けて設備投資を積極化

産を始める。投資額は約67億円。現地で自動車生産を開始する。同社の自動車部品4

品の新工場を建設し、2016年4月をめどに生産を開始する。メキシコは自動車エンジン用軸受

リスク分散 国内も増強

協和工業(愛知県大府市)は建設を延期していたタイのユニバーサルジョイント新工場を15年2月をめどに稼働させる。当初は13年末に稼働させる予定だったが、11年にタイで発生した大規模洪水後の工場建設ラッシュを避けて延期していた。その間の増産対応は既存の賃借工場敷地内で

など事業拡大を狙い、15-17年度の3年間に合計350億円規模の設備投資を実施する。12年度から続く年間100億円程度の高水準な設備投資を継続し、17年度に同軸受の世界シェア40%(現状は約31%)を達成する計画。15年度からはインドでの新工場稼働などを予定する。判治誠吾会長兼最高経営責任者(CEO)は「13年に稼働したメキシコ工場をまだ増産体制を整備する」と鼻息は荒い。



「テナントをつくるなどしてしのいでいた」(鬼頭佑治社長)。建設工事が落ち着きや受注増を受け、満を持して計画を再開する。

協和工業のタイの新工場完成予想図